

授業科目(ナンバリング)	ボランティア論(AB110)		担当教員	韓 榮芝			
展開方法	講義・演習・実習	単位数	2 単位	開講年次・時期	1年・通年 講義・演習:前期 実習: 通年	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>ボランティアに関する精神、歴史、理念及び方法について講義と実体験を通して総合的に理解できる。 ①歴史と現状、②福祉・教育・環境・スポーツ・災害、被災後等の活動理論、③機関及び組織との連携・協力の方法、④地域のボランティア情報を収集し参画する方法。⑤NPO 法人の活動などを理解できる。ボランティア及び活動記録の方法、活動時の倫理的配慮、活動の広報、リスクマネジメント等を具体的に体験し理解することをねらいとする。</p>							② ⑦ ⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	ボランティアシップについて理解できる。 障害者スポーツの概説について理解できる。				・ボランティア実習記録書 ・外部講師	10% 10%	
情報収集、分析力	福祉ボランティアをはじめ、社会の課題を情報収集し、ニーズに対して自己及び社会の成長に役立てることができる。				・ボランティア実習記録書	25%	
コミュニケーション力	被災後及び地域の日常的なボランティアに関して、それらにかかわる多様な立場の人々と相互理解を図ることができる。				・ボランティア実習記録書	10%	
協働・課題解決力	ボランティアの現場で、周りの人と協力して、様々な課題に対応することができる。				・ボランティア実習計画の作成及び提出	30%	
多様性理解力	急激に変化する地域社会と、生活者の危機や平時のニーズ等について、相手の立場になって理解することができる。				・ボランティア実習記録書	15%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>授業内ワーキングは、意見交換や情報収集に取り組む。その際「他者理解、ニーズ把握」を文章で表現できているかを評価する。そしてワーキング内容の代表的な意見を授業内でフィードバックし学生間で共有知識とする。障害者スポーツは講義方式で学び、レポートにより外部講師の評価を受ける。実習発表会レポートは獲得した専門性の表現力を評価する。ボランティア実習は、2日以上行い、提出記録書で評価する。発表会は、ボランティア実習終了後の年度末にボランティアチーム毎に個人発表を行い、体験内容を皆の前で披露するので参加することを義務とする。</p>							
授業の概要							
<p>講義では、ボランティアの歴史・ポリシー・社会的意義・種類等を紹介する。演習では、興味あるボランティアを探し、ディスカッションにより学生同士で共有する。実習では、各自でボランティアに出かけ、実習記録をポートフォリオに提出する。従って、授業出席とボランティア実習を行うことが必須である。特に、ボランティア実習の日程や終了報告は「ポートフォリオ」に学生が記入することで単位認定する。また、外部講師の講話日程は変更もありうるので案内に注意すること。ボランティア実習先は大学へ依頼のあった機関も紹介するが、基本的に学生が探して相手先を交渉する。決定した場合、ポートフォリオの予定表へ事前提出すること。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分である。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：岡本榮一他編「学生のためのボランティア論」(2014) 社会福祉法人大阪ボランティア協会出版部 指定図書：日本福祉教育・ボランティア学習学会編「ボランティアネットワークと大学の変容の可能性」(2002) 万葉社 参考書：大阪ボランティア協会編「市民活動論(改定第二版)」(2014) 大阪ボランティア協会出版部 実習記録ノート：「ポートフォリオ」を用いて記録する。</p>							

授業外における学修及び学生に期待すること			
<p>ボランティアには新しい出会いがたくさんある。既成にとらわれない新しい活動も自ら発見して行って欲しい。無償性・主体性・継続性が基本であり、大学生のときにしかできないことを体験して欲しい。</p> <p>ボランティア実習では、自分自身を守ることとても重要なことである。ボランティア開始から終結までの手順を学習・体験できるが、そこにはボランティアを必要とする方がおられることを意識した上で受講してほしい。</p> <p>なお、ボランティア実習は原則、夏季休暇を利用して行う。</p>			
回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	ボランティアとは 歴史と理念	ボランティア入門のための概説、ボランティア実践の心構え、ボランティアを活用するヒトの気持ちを知る。ボランティアの定義を学修できる。(韓)	予習：世界のボランティア活動を調べる。復習：レポートを作成する
2	学生ボランティアの基礎	地域にあるボランティアと学生ボランティア活動について理解できる。(韓)	予習：県内のボランティアについて調べる。復習：演習を振り返る。
3	ボランティアとしての基礎知識	ボランティアとしての心がけやマナー、ボランティア先を決める際の連絡の仕方について説明する。(韓)	予習：配布資料。復習：演習を振り返り、その内容をレポートにする。
4	ボランティア活動実践の拠点としてのNPO法人 (外部講師との対談授業)	ボランティア活動の拠点づくりに NPO 法人制度を利用した組織化が有益である。NPO 法人の基本知識や設立の方法を理解できる。(外部講師 山北)	予習：興味のあるボランティア活動に関する NPO 法人、助成金をネットで調べてくる。復習：振り返る
5	災害ソーシャルワーク外部 (講師との対談授業)	災害時の DMAT の活動を知り、クライシスマネジメント、リスクマネジメント理論を理解し、災害ソーシャルワークの基礎を学修できる。(外部講師 社協)	予習：DMAT を調べる。復習：講義を振り返り、災害 SW の理解を深める。
6	障害者スポーツ講話	外部講師の講義 (外部講師 渡邊)	レポート作成・提出
7	ボランティア技術演習 1	ボランティアに必要な技術体系について理解できる。(韓)	コミュニケーション等の演習を振り返る
8	ボランティア技術演習 2	ボランティアに関する理論を技術と結びつけて理解できる。(韓)	支援技術で学んだ演習を振り返る
9	ボランティア技術演習 3	ボランティア先を調べ、どのような理念や趣旨で活動をしているのかについてグループ毎に報告する。締切：ボランティアの日程を決めて報告する(韓)	予習：ボランティア先を調べる。復習：調べた内容を整理する。
10	ボランティア活動計画立案	興味のある分野のボランティア募集を調べ、参加計画を立てる。グループで互いに報告し、ボランティアの多様性を共有する。(韓)	予習：希望するボランティアを決める。復習：スケジュールをまとめる。
11	ボランティア実習	これまで、学生が取り組んだボランティア実習先例 ①平戸市社会福祉協議会主催のボランティア活動 ②24 時間テレビチャリティへの参加 ③地域の福祉施設や学友の支援ボランティア活動 ④災害ボランティア 被災地へ出向く活動 ⑤その他 学内のボランティア活動 (韓)	ボランティア先の実施するオリエンテーション等へ出席・参加する
12	ボランティア実習	興味や日程に応じて、共にボランティアを行うグループ分けを行い、リーダーを決め、協力してボランティアに参加する。 参加後は学生各自が「ポートフォリオ」へ「ボランティア実習記録」を提出する。(韓)	記録を作成する レポートを作成する
13	ボランティア実習		
14	ボランティア実習		
15	ボランティア実習		
16	プレゼンテーション発表	ボランティア実習体験発表を行う。感動した言葉や観察した行動について互いの発表を聞き、共有する学修ができる。(1月補講日を設定) (韓)	発表のための準備を行う。アプロプリエーション(発表者の声の積み重ねを獲得する)として振り返る。